

第11回 国際日本学シンポジウム

主催：お茶の水女子大学 比較日本学教育研究センター
大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」
女性リーダー育成プログラム

平成 21 (2009) 年 7 月 4 日 (土) ~ 7 月 5 日 (日)

【使用言語：日本語、資料代 500円】

7 月 4 日 (土) 理学部 3 号館 701 室

セッションⅠ (13:00~17:00)

テーマ：日本近世港町の社会・文化構造

日本近世の港町は、ヒト・モノや情報が交流する拠点として、ひとつの都市類型を進化させてきた。本セッションでは、港町独自の社会・文化構造を明らかにしながら、近世都市の特質を考察することを意図している。それぞれの報告者が提示する、港町をめぐる諸社会集団の具体的な活動を通して、近世都市の社会・文化構造や人々の交流のありかたを展望してみたい。

挨拶

羽入佐和子 (お茶の水女子大学学長)

研究発表

- 司 会 神田 由築 (お茶の水女子大学大学院准教授)
矢田 純子 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程) 「オランダ商館長の江戸参府と鞆の浦」
後藤 雅知 (千葉大学准教授) 「近世福山藩領における保命酒生産と鞆町の社会」
森下 徹 (山口大学教授) 「尾道の仲背と仲間」
町田 哲 (鳴門教育大学准教授) 「近世後期徳島城下近郊における『胡乱人』対策と四国遍路」

★茶話会 (17:30~18:30) 理学部3号館2階ラウンジ ふるってご参加下さい。(無料)

7 月 5 日 (日) 理学部 3 号館 701 室

セッションⅡ (10:30~18:00)

テーマ：日仏交流の中のテキスタイル~明治時代から今日まで~ —技術、デザイン、コレクション—

横浜開港及び日英修好通商条約締結150年を機に、日本とヨーロッパにおける美術とモードの変革に、絹織物あるいは広く織物(テキスタイル)が果たした役割に着目する。明治期日本での紡績技術の普及におけるフランスの先駆的行動を見直し、テキスタイルの図案やデザインの相互影響といった点から、ジャポニスムの時代から今日までの日仏相互の美術交流の歴史を辿りたい。

■午前の部 (10:30~12:00)

司 会 秋山 光文 (お茶の水女子大学大学院教授)

公開講演会

深井 晃子 (京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター 理事)
「日仏交流の中のテキスタイル：
ジャポニスムとモードの視点から」

■午後の部 (13:00~18:00)

司 会 秋山 光文 (お茶の水女子大学大学院教授)
ロール・シュワルツ=アレナレス
(お茶の水女子大学大学院准教授)

研究発表

- オーレリー サミュエル (ギメ美術館クリシュナ・リブー織物コレクション担当)
「ギメ美術館蔵クリシュナ・リブー日本織物コレクション：その研究と保存」
高木 陽子 (文化女子大学教授)
「染型紙とジャポニスム」
円谷 智子 (パリ第1大学大学院博士課程)
「メッセージ媒体としての現代スカーフ：アクセサリーに映し出された
20世紀—ガリエラ美術館コレクション—」
廣瀬 緑 (パリ第7大学准教授)
「染織とグローバリゼーション：アンディエヌ(更紗)からジャポニスムへ」

パネルディスカッション

司 会 徳井 淑子 (お茶の水女子大学大学院教授)

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号 (東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩5分 正門(東門)からお入り下さい。)

お問い合わせ (月~金 10~17時)

比較日本学教育研究センター
JCS推進室

Tel. 03-5978-5691
Tel. 03-5978-5504

E-mail ccjs@cc.ocha.ac.jp
E-mail gsgp-jcs@cc.ocha.ac.jp

ホームページ <http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>

ホームページ <http://www.dc.ocha.ac.jp/djs-jacs/>